

研究ノート 長岡大学20周年、まちなかキャンパス10周年に寄せて

山川 智子

1. はじめに～幻となった「まちなかキャンパス長岡10周年祭」と巻き返し

本稿は、長岡大学20周年の節目に際して、同時期に10周年を迎えた「まちなかキャンパス長岡」(以下、まちキャンとする)との関わりと現状を述べたものである。2020年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大は、未だに収まらず、社会に深刻な影響を与え続けている。

2021年09月10日～11日2日間に予定されていたまちキャン10周年祭企画も、新型コロナウイルス感染症のため、開催直前に中止を余儀なくされた。当ゼミⅢⅣでは、昨年6月頃からこのイベントで販売する有償ノベルティグッズの検討を重ねてきた。学生たちが自ら企画した商品を10周年祭にて販売する予定だった。

令和3年度ゼミナールⅢ・Ⅳ活動紹介

山川智子ゼミナール

# 自分を守る『危機管理』、何とかやってみよう!の『自己効力感』

ゼミで力を入れているのは『危機管理がきちんとできること』と『自己効力感を醸成すること』です。大学を出て社会人になる前に、世の中のしくみや自分たちの生活や生命を守るために必要な知識や情報をなるべく多くつかんでいって欲しいと切に願っています。

新型コロナウイルスの感染拡大や自然災害の急増という社会的変化の波にもまれながらも、リスクを回避してたくましくしなやかに生きてゆくためにも、ゼミ生たちの自己効力感を高めてレジリエンスを強化する地固めを図っています。



【参加学生】 18名(3年生8名,4年生10名)

- 4年生 大淵 麻央、笠原 もづる、小杉 悠菜、齋藤 芽生  
佐藤 友紀、瀬藤 大河、長原 夢里香、宮島 由似  
山代 裕也、吉田 彩也花  
3年生 岡部 智也、佐藤 秀輔、滝澤 颯太、中嶋 優貴  
羽田 紅紫、王 映紅、瞿 露、辛 夢

まちなかキャンパス長岡10周年祭に向けて、記念のノベルティグッズの開発に取り組みました。上記のタオル(色違い2パターン)はゼミ生たちのアイデアや意見が形になったものです。まちキャンで販売しています。

何もないところから商品を作るのではなく、まちキャンがどのような場で、どのような人たちが活用しているのか、といった特徴を踏まえ、グッズの選択やデザインの方向性を模索した。まちキャンスタッフの適切な指導もあって、デザインや材質、さらに利益率等も考慮した起案が整ってきた。

有償ノベルティグッズにタオルを選んだ主な理由は、おおまかに3つある。

- ①実用性がある、年代・性別を問わない商品である。
- ②日常生活でも使用するし、記念として取っておくこともできる。
- ③複数枚の購入が期待できて、ロゴマークの印刷がしやすい。

さらに言うなら、これまでになかったグッズを提案したいという目論見もあった。

まちキャンでは、これまでに折に触れて、さまざまなノベルティグッズを作成・販売していた以下に示すトートバッグ(500円)やクリアファイル(10周年ではノートもつけて200円)などがそうである。(まちキャンホームページでも紹介)



## グッズ紹介 まちキャン×長岡大学 オリジナルタオル

＼講座や多目的スペースで運動をして汗を流した時に使える！／

値段：1枚 ￥400 サイズ：たて約 34cm×よこ約 84cm ① 白色 ② 黄色



残念ながら、学生たちがイベントで自ら販売する機会はなくなってしまったが、まちキャンでは今でも販売している。少し厚めの生地で柔らかい感触が特徴である。

中止となってしまった10周年祭でやるはずだった企画講座のうち、カフェマーケットとプレミアムカフェは、コロナ禍が少し落ち着いてきた2021年11月4日に改めて開催された。イベント会場で行われる予定だった体験コーナー以外の講座・講演の多くは、次年度に持ち越されて実施される予定である。それ以外の講座で、新型コロナウイルス感染症のため中止となった講座は、基本的には次年度に予定を替えて実施する運びになっている。(以下、まちキャンホームページより引用)

カフェマーケット&プレミアムカフェ、やります！

2021 **11/4 (木)**



**10周年企画 17:00~18:00**



まちキャン講座のつくり方

場所：4F 交流広場

ゲスト：まちなかキャンパス長岡運営協議会委員、事務局 OB



**プレミアムカフェ 19:00~20:30**

学長・名誉副学長が語る！ きになるまちキャンよもやま話

場所：4F 交流広場

ゲスト：まちなかキャンパス長岡 学長 羽賀友信

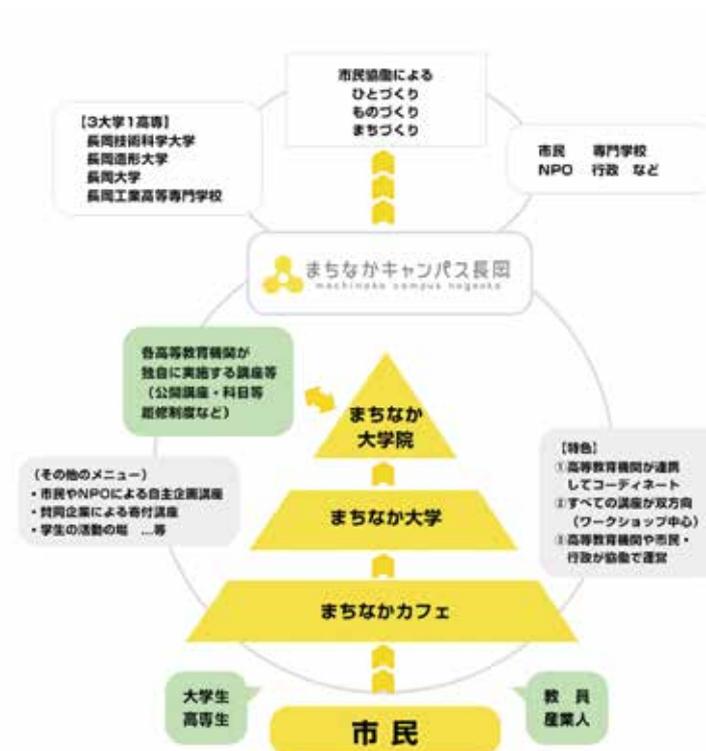
まちなかキャンパス長岡 名誉副学長 中出文平

## 2. まちなか講座のつくりかた、まちなか講座の人気の秘密に迫る

まちなかの根底にあるのは米百俵の精神で、「学び」「交流」「伝統」の3つのコンセプトを掲げている。多様化かつ高度化する学びのニーズやスタイルに対応できるよう、長岡市内にある高等教育機関（長岡大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学・長岡工業高等専門学校、長岡崇徳大学：四大学一高専）と協働して、各校の専門性を活かしたユニークな講座をこれまで数多く開催してきた。

「まちなかカフェ」（単発講座）や「まちなか大学」（連続講座）は、長岡大学を始めとする市内高等教育機関の教職員及び市民、長岡市から構成される各分科会で、企画・運営されている。カフェ分科会、大学分科会、さらに広報分科会の分科会長は、原則として四大学一高専の教員から選ばれる。各分科会は、例年総会後の6月頃より次の年の2月頃まで年8回程度開催される。毎年初夏から冬にかけ半年以上の時間を費やして、次年度企画を練り上げ、テーマを明確化し、内容の吟味を重ね、講師の選定や招聘を行っている。筆者もここ数年来「カフェ分科会」に参加して、分科会長を務めている。「カフェ分科会」では、一般向けの「まちなかカフェ」と、多くは夏休み時期に開催される「こどもカフェ」を掌握している。

まちなかキャンパス長岡の構成図（まちなかキャンパス長岡公式サイトより）



注) 上記概要図は設立当初のもので、長岡崇徳大学はまだ含まれていない。

広報分科会は、まちなかキャンパス長岡に関わる情報発信、講座一覧の作成、毎月発行される「まちキャン通信」の企画・立案や、まちキャン館内の資料・パネル等の展示や整備に関することを掌握している。

まちなか大学・大学院分科会は、まちなか大学：年間約10講座の具体的なメニューと講師選定など企画・運営に関することや、まちなか大学院：年間約2講座の具体的なメニューと講師選定など企画・運営を担っている。

さらに、各学校からの学生代表によって構成され、学生が企画・運営し、参加する事業の実施に関わる学生交流分科会もある。例年の年度末には、学生たちの活動紹介が、まちキャン通信号外版に掲載されている。

そして、まちなかカフェ分科会の主な役目は、年間約50講座の具体的なメニューと講師の選定など企画・運営に関することである。

まちキャンで講座企画を練る作業は分科会メンバーの協働で行われるが、その場において重要視しているのは「市民のニーズに答えているか?」、「この講座を開催することで参加した人に喜んでもらえるか?」、「まちキャンらしさ、長岡市の中心で行う講座として適切であるか?」という点である。

「まちなかカフェ」と「まちなか大学」はいずれも受講者を20~30人と少人数に絞ることで、ゲスト(講師のこと)と受講者との距離を縮め、質疑応答の時間もふんだんに設けるなど、アクティブ・ラーニングと双方向のやりとりを重要視した講座構成である。ジャンルや開催時期によって集客が意外と伸び悩むケースもあるが、これまで開催した講座は充足率・満足度とも軒並み好評で関心の高さが伺える。

先述したカフェマーケット「まちキャン講座のつくり方」である。まちなかキャンパス長岡運営協議会委員が講師とあるがこれはまちなかカフェ分科会メンバー長岡技術科学大学の鈴木常生氏、市民代表の河田恵美子氏と筆者の3名である。

ファシリテーターであるまちキャンスタッフの荒木茜氏が司会進行を務めた。

趣旨・目的が『年間約80講座(約130コマ)を企画運営しているまちキャン。1つの講座ができるまで、まちキャンスタッフの講座企画への想いや苦労がありました。人気のあの講座は、どういう風にできているのかを知ってもらい、まちキャン愛を醸成する』とある。ファシリテーターの質問に応じる形で、まちキャン側が用意したほぼ分刻みのシナリオ(毎回このようなものを作成するわけではない)に沿って進行した。

まず、講座企画の流れとして、講座ができるまでのおおまかな流れを紹介した。

- ・ステップアップ体系 : まちなかカフェ→まちなか大学→まちなか大学院へと
- ・講座企画の流れ(概要) 講座案募集・絞り込み・打診・内容検討・講座一覧作成

毎年200件以上集まる講座案の中から、一般向けカフェ約40講座、こども向けカフェ約15講座に絞り込んでいる。絞り込む際の選定ポイントは、実現可能性、その時々々の社会情勢(トレンド)、講師の心当たり(ツテ)があるかで、近年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策にも考慮しての絞り込みとなっている。例えば、従来から人気が高い、会場での試食・飲食を伴うような講座は最近ほとんどない。他にも、人数制限をかける、会場では各テーブルにアクリル板を設置するなど、可能な範囲で最大限の感染対策をして講座に臨んでいる。

この時のカフェマーケットに参加してくれたのは、いわゆる「常連」(まちキャン講座のヘビーユーザーを指す)の方々が多かった。まちキャンの講座体系等の説明は釈迦に説法だったかも知れないが、分科会の内情を伝えるという点では大いに効果があったと思われる。

講座のアイデア(ネタ)をどのようにして集めるかという話では、学内・組織内での募集や、委員同士のつながり(コネ)や趣味などを例として挙げたが、最も強調したのは講座アンケート結果である。実施された講座のアンケート結果は、各分科会で振り返り、受講者の意見や要望を活用している。アンケート結果が形になった事例を以下にいくつか挙げる。

#### 【アンケート結果のまとめから引用】

##### 《バックヤードツアー》

- ・水族館、「STAFF ONLY」その先には何が？(H30)
- ・トキミ〜てにいてみよ〜て(R1)
- ・学芸員のお仕事 ―ようこそ！長岡科博のバックヤードへ―(R3)

R4.2/18 開催予定→他にはない！とりピートの声多い。最近ほぼ毎年開催。

##### 《学びなおし》

- ・90分で学ぶ高校地学(H30)      ・今さら学ぶ！中学公民(R1)
- ・今さら聞けない選挙の話(R3)      ・今さら学ぶ高校物理(R3) R4.2/25 開催

→学校で習ったことを大人になった今聞いてみると、新たな発見があると近年人気。

##### 《企業訪問》

- ・[こども] ながおか企業探検隊！―原信編―、―システムスクエア編―(R3)

→めったに行けない企業訪問は大人にも子どもにも人気で、むしろ大人の方が楽しんでしまうことも。→おとなの工場見学という流れに

実際に上記のような具体的な事例を挙げての説明は、説得力があったと思われる。特徴的だった講座企画、講座企画のコツ、こだわり、失敗談等の紹介や、まちなかカフェをどのようにしてつくったのか、初期の頃の振り返りなども行った。実際に示した内容は、以下の通りである。

- ・飲み物の提供 / 講師をゲストと呼んでいる経緯
- ・ブラツムラ(H29 与板、H30 長岡駅、R1 柿川前編)

→座学だけでなく、おでかけする講座も人気。

#### 【時間帯の模索】

- ・夜の千蔵院で地獄のお話を聴く(H28)

→20:00～22:00 開催。通常的时间と異なる夜遅い時間。

夜遅い時間にできるということは、朝もできるのではと考え…

- ・夜が明けたら朝ヨガに行こう！(H29)
- ・マインドフルネスってどうするんです？(H30)

→8:00～9:30 開催。通常的时间と異なる朝早い時間。

#### 【ターゲットを意識して平日に開催】

- ・まっすぐに醸し伝える新潟の味 ―みそからピクルスまで―
- ・衣食住に活かす色彩のいろいろな効果

→主婦層をターゲットに講座を企画。20～30代女性や、年配の方の受講者が多い。

【新しい講座の形】

・教えて！フレンドの社長！（R1）

→事前に受講者から質問を募り、講座の際に答える形をとった

まちキャンの講座に特徴的なのは、その絶妙すぎるネーミングである。

【遊び心を忘れずに、企画者が楽しむ：講座タイトルがキャッチャーな事例→コツはダジャレ!?!】

・あっちこっちそっちウォッチ！（H28）

・いろ歯にほへと一歯にまつわるエトセトラー（H28）

・鼻をクンクン、燻製学（H28）

・とあるアルコールのあるある話（H29）

・カレーなる一族になろう！（H29）

・チョコのこと、聴講しよっ♡（H30）

・お茶にまつわる茶飲み話（H30）

・人生を流されないためのそうめん道（H30）

・世界からも高評価！味噌汁を知る（H30）

・温泉ガイの好いかげんな話（H30）

・元気出していきましょう、経済（R1）

・ハチをバッチンする仕事（R1）

・寝耳に水の耳の話（R2）

・ずい道どうでしょう（R2）

・衣を着せない歯のはなし（R2）

・ドクターW 私、木を診れますので。一樹木医の仕事—※配信

・「松田ペット看板」を見ていかんば！ 11/30開催

・身体が歪むのは、脳機能の低下だからだ 11/12開催

・古墳に大コーフン！ ※2年連続中止

実際に、キャッチャーなタイトルづくりには、かなりの力を注いでいる。ことわざや番組名など、受講しやすさやハードルを下げるような表現をしている。ある意味できわどい面もあるのだが、敢えて印象に残るネーミングに特化することで、受講への関心を高める効果はある。このスタイルは、まちキャン立ち上げの当初からつづく、いわば伝統芸に近いものといってもいい。

### 3. 忘れ得ないまちキャン講座たち、長岡大学との連携 10年間の軌跡から

【平成23年度】

まちキャン立ち上げ時期である。筆者は、立ち上げ時のイベントの一環として約2時間のシナリオ講座で参加した。この当時は分科会メンバーではなく、講座もいつものサイエンスコーナーではなく、通常の教室で実施した。この時はまちキャン誕生お祝いムードもあって、割と気楽な感じで講座に臨んでいた。

【平成24年度】

まちなかカフェ「『アイデア』という財産～知的財産法を語る～」で本格的にサイエンスコーナーにおける講座を行った。初めてのオープンスペース会場での講座であることと、受講者に弁理士事務所の方々がいて、とても緊張しながら務めた記憶がある。自分の詰め甘さを痛感する、とてつもなくいい機会になった。

他にも、カフェ「コンビニおにぎりの秘密」(松本和明氏)、大学「源氏物語を読む(5回連続講座)」(小川幸代氏)、大学「数学で資金運用を考える～合理的な投資～」(牧野智一氏)が印象に残っている。

【平成25年度】

長岡大学の教員たちによるまちなか大学として「身近な経済学(5回連続講座)」にも1回参加した。「医療と経済の関係～健康はお金で買えますか?～」

但し、講座アンケートを見ると、全般に身近でない、難解だという意見もあったので、どうすれば講座をより身近に感じてもらえるのか?と試行錯誤するきっかけにもなった。前年度のリベンジもあって、筆者自身のまちなかカフェ「気象と健康との関わり～天気を知って元気になる～」では、あまり内容を詰め込みすぎないように注意して、メリハリのある構成を心掛けた。この頃からカフェ分科会にも関与するようになって、講座の企画・立案等にも参加した。

特筆すべきは、前学長の内藤敏樹氏によるまちなかカフェ「長岡に“栃鉄”があった頃」の開催である。大正時代から昭和の末期に至るまで中越地域の大動脈であり続け、また越後長岡百景の一つ(No.71)にも選ばれた「とてつ」を取り上げた講座である。栃尾鉄道開業期の長岡・栃尾、ユニークな電車や機関車、三社合併の背景など、その隆盛をたどり、今も当時の面影を残す廃線跡なども紹介しながら、当時を思いめぐらす構成だった。

鉄道に造詣が深い前学長に、鉄道講座の企画を打診したところ、「鉄学入門」という題名で、全15回に及ぶ企画案が届いた。シラバスではないのだが、すべての項目が鉄道愛で埋め尽くされているさまに圧倒された。もしもあの企画全部が実現していたらと思うと、未だにとてつもなく惜まれる。内藤前学長は、この次の年にも、まちなかカフェ「ブルートレインの最後～鉄道ノスタルジア～」という講座を担当されたが、いずれも大盛況であった。

前述のまちなか大学牽引役でもあった兒嶋俊郎氏も、鉄道を始めさまざまな分野に造詣が深く、もしも実現していたらと思う講座企画はたくさんあって、返す返すも惜まれる。

【平成26年度】～【平成27年度】～【平成28年度】

まちなかカフェ「いい感じで知っておきたい漢字のあれこれ」を担当した。漢字そのものよりも、漢字を用いた記憶と心理にまつわる内容であった。個人的におそらくこの頃から、まちキャンの講座でもあまり緊張しなくなった。欲張ってあれこれ詰めこみすぎるきらいがある筆者が、講座スライドを最初に100枚以上用意して、そこから潔くどんどんぶった切って半分程度にしてゆく今のスタイルが定着した。削ることで伝えたい内容にメリハリがつくことを講座をしながら、学んでいった。

まちなか大学の人気講座である「企業のトップがやってきた!」(当時のファシリテーターは松本和明氏)が登場したのもこの頃である。

まちなかカフェ「長岡の老舗本屋です!」で松本和明氏と教え子でもある覚張書店の覚張良太氏との師弟対談が実現した。まちなかカフェ「天気が変われば景気も変わる?」では、気象予報士の高野

哲夫氏との共同開催となった。

【平成29年度】～【平成30年度】

この時期は自身の講座に注力するよりも、他の講座支援の裏方に回っていた。「企業のトップがやってきた！」の二回目の開催や、市民プロデュース講座を利用しての十分杯の講座や、まちの駅のこども講座などが印象に残っている。

【令和元年度】～【令和2年度】～【令和3年度】

まちなか大学「土業」の全体企画と1回を担当した。新型コロナウイルスの影響で中止になった講座もある。

#### 4. おわりに～これからの講座に求められるもの

新型コロナウイルス感染症の拡大は、従来からあった講座のありかたも大きく変えた。オンラインでのやりとりが飛躍的に浸透したのもそうだが、会場に来て対面で受講する形式だけでなく、現地に集合する形式の講座も比較的人気が高い。まちキャンでも、試験的にはあるが、Youtube配信による講座も検討された。しかし、受講料をどうするか？という点が未決なので、実用化には至っていない。

そもそも人は何で講座を受けようと思うのだろうか？ どのような講座が求められているのか？ 結論は出そうもないが、その時々で知的な刺激となる講座を開催できれば、それに勝る喜びはない。カフェマーケットでも言ったことだが、知識や文化のよりどころがある人間は逆境でも耐えられる。だからこそ知は力だ。